



# 玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411  
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo

## 玉縄城大手門模型完成

縮尺50分の1の模型が昨年11月に完成し、植木にある龍寶寺玉縄民俗資料館1階に飾られています。昭和30年代に郷土の先輩たちが製作した玉縄城模型(立体地形図)と共にぜひご覧ください。「甦れ!玉縄城!」



**玉縄城500年祭から**  
いよいよ玉縄城500年祭実行委員会が具体的な推進活動に入ります。楽しみながら進めるまつりづくりへ、どうぞ皆様、ご参加ください。

**お城を偲ぶ場所がない**  
みどりの森という玉縄の生命線が後退していく。玉縄のシンボルである玉縄城址が次々に削られていく。玉縄城ってどこ? 何か残っていますか? 七曲坂を訪れる方に訊かれるたび、私たちは辛い思いをしてみました。

**足元の歴史を守り伝える 玉縄城遺構の発見**  
当会は一昨年から十一回に亘って城址と周辺の縄張り測量調査を進めてきました。今までに七曲坂南側の尾根から清泉女学院バス停脇の山稜部まで調査を終えて、「縄張り図」を制作しました。七曲坂の坂上

**まちづくりは 垣根を超えた協働で**  
新しいまちづくりは市民行政の垣根を超え、協働で進める。それが私たちの考えです。現在市の各部担当と協働の会議を精力的に進めています。

**来年には七曲坂市道整備 駐車場跡に認定子ども園**  
歴史の道七曲坂の市道整備は来年中に予定されています。その設計には当会の七曲坂整備チームが協力することになっています。どうぞお聞かせください。

## 玉縄城を偲ぶ広場をつくる 玉縄自町連と協力 市長要望書を提出

には太鼓やぐら、煙硝蔵、切り岸跡等が往時の形状を残しており、諏訪壇北側では掘割、「けまりば」や「月見堂」の平場、土塁、縦掘状の溝跡などが発見されました。

その基本精神はこうです。  
1. 単独では解決できない地域課題を市民行政の協働によって解決しよう。  
2. 対等の当事者としてパートナーシップを組み、垣根を超え古い慣行を超えて課題の実現を目指そう。

### 「玉縄城址まちづくり会議」の活動

- 2009年(平成21年)
  - 11/15 龍寶寺玉縄民俗資料館 展示品の名札付け等整備作業実施  
「玉縄城大手門模型」完成
  - 11/17 鎌倉市と第2回協働事業会議開催。市景観部他7名、当会11名参加
  - 11/22 「玉縄城500年祭実行委員会発会式」を清泉女学院にて開催。音楽会、記念講演会(神奈川県立歴史博物館鳥居氏)、シンポジウム等に松尾市長他来賓・市民370名参加
  - 12/6~4/3 清泉女学院内「諏訪壇、けまりば」等城址縄張り測量
- 2010年(平成22年)
  - 1/7 市と第3回協働事業会議開催。「玉縄城を偲ぶ広場構想」「七曲坂市道整備」「認定子ども園(七曲坂に開園予定)」等協議
  - 1/16 第5回玉縄歴史アカデミア「玉縄城址遺構発掘成果報告(市文化財課小林氏)」開催
  - 1/27 副市長と「まちづくり懇談」
  - 1/29 認定子ども園と打合せ実施
  - 2/2 市景観部長に七曲坂の自然をどう守るか市民緑地の問題提起
  - 2/2 市教育長と新年度協働事業を協議
  - 3/5 みどり学園巖谷理事長と子ども園園舎設計の改定等の打合せ実施。協力を約す
  - 3/5 玉縄学習センター(図書館隣)資料コーナー「玉縄衆の心と思ひ!」展示開始
  - 3/15 「市長要望書」を玉縄自治町内会連合会、植木町内会、関谷城廻町内会と合同提出  
まちづくりのオール玉縄体制構築へ
  - 3/28 「自然と歴史の学校」開催。城址散策と民俗資料館見学に45名参加
  - 3/31 龍寶寺玉縄民俗資料館と当会の作業協定締結
  - 4/3 七曲坂にベンチ2基を会員の手作りで作成・設置
  - 4/15 鎌倉市市民提案協働事業としての「民俗資料館リニューアル事業」がスタート
  - 4/24 第4回総会開催  
「残したい城址七曲坂の野草」勉強会を同時開催



## 玉縄思い出写真館

大船観音の昔のお姿 昭和二十年代撮影 提供 豊田富美子さん  
【ひと言】今とはお顔も違っておられます。



現在のお姿



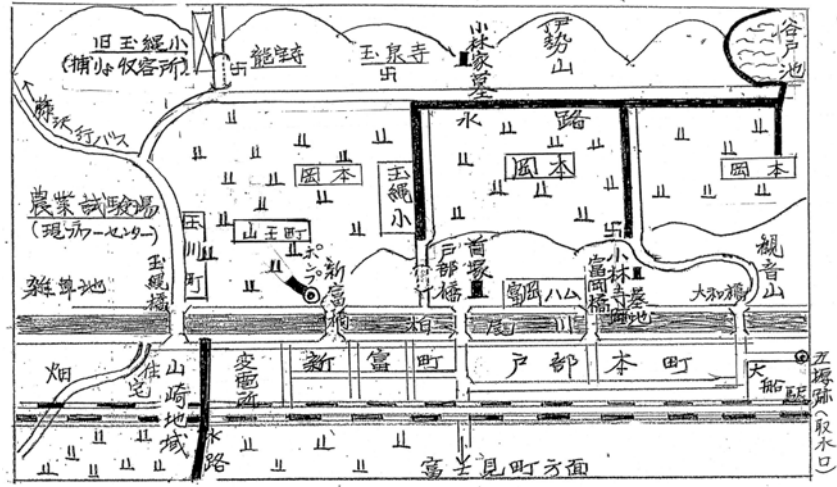
**第6回玉縄歴史アカデミア 「玉縄城の遺構を読む」**  
「戦場の村のメンテナンス・システム」  
— 戦国の城と民衆の智慧 —  
藤木 久志氏(立教大学名誉教授)  
□対談「庶民の智慧と力」  
藤木久志氏VS伊藤一美氏  
(鎌倉考古学研究所理事)

□5月22日(土)  
13:30~  
□玉縄学習センター3階  
**市民活動の日**  
**フェスティバル参加**  
□5月23日(日)  
14:00~15:30  
□鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉)地下ギャラリー  
□イベント「玉縄検定」クイズ  
□活動報告パネル展示

**七曲坂花壇クラブ**  
□毎月第3日曜日  
9:00~11:00

**玉縄城址歴史の道七曲坂アダプト(市道の美化奉仕)**  
□毎月第1土曜日  
9:00~11:00

**会員募集**  
入会ご希望の方は、事務局までお問合せください。  
□電話0467-457411  
年会費は4月から1年分1,200円になります  
**郵便振替口座**  
0025007114824  
または  
**みずほ銀行 大船支店**  
(373) 2441785  
玉縄城址まちづくり会議  
※住所・氏名・電話番号をお忘れなく!



# “七十年前の玉縄地域”

大嶋 文夫

汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

## 一、大船観音

昭和四年(1929)、発起人数名で大船観音の建立を計画し工事に手をつけたが、発起人が老齢のため次々と亡くなり、また資金も思うに任せず昭和九年頃より二十年もの間手がつけられずコンクリート打ちかけのままだった。その後終戦を迎え、昭和二十九年(1954)、新たに五島慶太氏が中心になり約四千万円を投資して昭和三十二年(1957)から約三年で完成した。(玉縄思い出写真館参照)

## 二、小林若狭と玉泉寺と小林家

平成二十一年(2009)三月に市教育委員会が発刊した『かまくら子ども風土記』によれば「玉縄城の家臣だったといわれる小林若狭が玉泉寺を建てた」とあり、また昭和五十八年(1983)三月に平本久男氏が出された『玉縄北条の最後』という小冊子には「小林若狭の子孫の小林馨さんらは、過去帳や墓石などから若狭が作られたものと思っている」と記されている。

## 三、玉縄小学校の沿革(かまくら子ども風土記から)

明治十年(1877)玉縄小学校は貞宗寺から龍寶寺に移り、更に昭和十二年(1937)に現在の地に転移し今日に至っている。  
(社会福祉法人清和会理事長)

# インタビュー～玉縄万華鏡～

## 七十年前の城宿の旧家の話

石原 琴子さん

(いしはら こと子さん・城廻)

豊田 富美子さん

(とよた ふみこさん・城廻)

—お二人のお付き合いはいつ頃からですか—

石原 私は大正七年生まれですが昭和の初めに藤沢の大地の名主の家から十九歳で石原家にお嫁に来ました。その祝言で三三九度の酌をする雌蝶(めちよう)の大役を務めてくれたのが、同じ城宿の旧家である河原さんの当時六歳のお嬢さん、富美子さんでした。



豊田さん(左)と石原さん(右)

豊田 その時からのお付き合いです。でもう七十三年近くになります。雌蝶の時の着物で撮った写真が今でも残っています。



豊田さん(旧姓河原さん)が石原さんの雌蝶を務めた時の着物で撮った写真

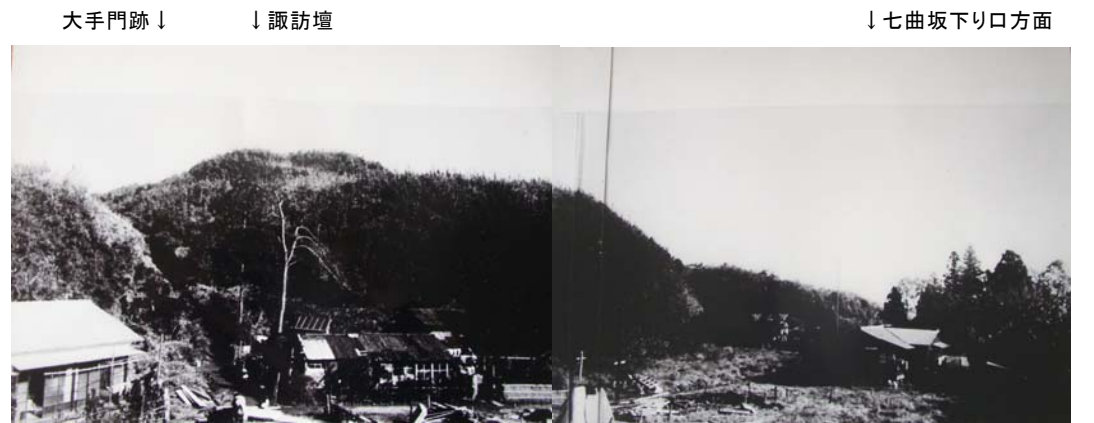
—石原さんのお宅は工務店でいらっしやいますか—先祖の家業ですか—

石原 石原家は昔から大工をしていました。言い伝えによると先祖は七曲坂下の玉縄番匠と呼ばれていた小坂家の本家(玉縄城があった時代)に北条氏の命で鶴岡八幡宮を修復した大工の出身でしたが、ある時に坂の上の穴倉に棲んでいた平家の落人の女人に「自分をずっと護ってくれるのなら」という条件で今の土地を譲ってもらったそうです。その後石原の姓を名乗ってその場所で大工を続けてきました。女人の位牌は残っており、その穴倉かどうかはわかりませんが今でも家の裏にはやぐらがあつて、中ほどに水が溜まって池のようになつた所があり、冷蔵庫の代わりになる位いつも空気がひんやりしています。

—豊田さんのお実家の河原家の屋号は「おんまや」とお聞きしましたが—  
豊田 おんまや(うまをあずかっていた)ので馬小屋がありました。しかし私が小さい頃にはもう馬はいなくて、くず小屋(山の枯れ葉を集めてきて溜めておく)に使っていました。  
七十年前の城宿(陣屋坂を上りきった辺りの集落の名前)は家が十五軒しかありませんでしたが「なべや・いたや・つけぎや・だいく・いんきよ・しも・おんまや」等家業や場所が判る屋号で呼び合っていてみんな仲良しでした。  
明治の初め、石原さんの家の前は梅林でその前に製糸工場があつて、祖父はその工場に勤めていた祖母を嫁にもらったそうです。

—石原さんのお嫁入り後の生活はどうなものでしたか—

石原 大工の家でしたが畑や田んぼがあつて大変でした。男は大工の仕事に行つてしまい女手だけで農作業をしなければならず、姑が四十八歳で亡くなったばかりの時の嫁入りだったので祖母・曾祖母・私と女手も足りませんでした。また回りの農家は農耕のため牛を飼つておりお米を今のフラワーセンターの前辺りにあつた小杉精米所に持つて行くのに牛車を使つていましたが、うちは大工の家で牛は飼つていませんでした。それで私が背負い梯子に括り付けて七曲坂を上り下りした



大手門跡 ↓

↓諏訪壇

↓七曲坂下り口方面

昭和30年(1955)頃の玉縄城大手門跡(現在の清泉女学院裏門)辺りの風景 (写真提供 清泉女学院)

## 歴史シリーズ 6 玉縄城主 北条氏勝

うじかつ

六代玉縄城主北条氏勝(ほうじょううじかつ)は、永祿元年(1558)四代城主氏繁(うじしげ)の次男として出生。氏勝が玉縄城主の官名である左衛門大夫を名乗った文書初見は天正十年(1582)五月のもので、天正八年(1580)から天正十年の間に五代城主である兄氏舜(うじと)は氏勝に家督を譲り隠居もしくは死没したものと推定されている。  
天正十年(1582)は北条氏にとつて激動の年であった。二月には関東における永年の宿敵である常陸国佐竹氏十九代義重の嫡男義宣が元服式を行い常陸国統一に近づく絶頂期を迎えている。三月には織田信長・信忠父子が信濃から徳川家康が駿河から甲斐に侵攻し武田勝頼は甲州大和村田野にて自刃し武田家が滅亡。六月には織田信長・信忠が明智光秀の謀反により本能寺の変にて被害され、政局は一気に羽柴秀吉による天下統一に向かう。

氏勝は関東の諸情勢が大きく変化してきたこの時期に城主に就いたのである。  
天正十二年(1584)に入ると羽柴秀吉・石田三成は上杉景勝・佐竹義重らと誼を通じるようになる。

天正十三年(1585)には秀吉は北条氏の宿敵佐竹義重に北条方との戦いを励まし、以後秀吉と関東諸氏との通好が増え関東出陣の意も伝えられるようになる。七月に入ると秀吉は従一位関白叙任となり天下統一が加速する。  
天正十五年(1587)十二月に関白豊臣秀吉は「関東奥両国惣無事令」を発した。これは関東・奥州における大名領主間の交戦から農民間の喧嘩刃傷沙汰に至るまでの抗争を厳禁する平和令であった。その目的は大名の領地拡大を阻止し豊臣政権が全領土を掌握することにあり、争い事は関白の名の下にすべて秀吉が裁定を下し、従わぬ者は朝敵として討つという法律であった。

中央で豊臣政権が強化され、諸大名が統々と臣従を誓う中で、玉縄北条氏の本家である小田原の北条氏政(うじまさ)・氏直(うじなお)父子はこれに応じず、秀吉は北条氏を敵対者とみなし、北条氏は孤立していくことになる。

(次号に続く)

